

製品名: APLF (リン酸化 Ser116) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04246

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	APLF
別名	APLF; C2orf13; PALF; XIP1; Aprataxin and PNK-like factor; Apurinic-apyrimidinic endonuclease APLF; PNK and APTX-like FHA domain-containing protein; XRCC1-interacting protein 1
遺伝子 ID	200558.0
SwissProt ID	Q8IW19
免疫原	抗血清は、Ser116 のリン酸化部位周辺のヒト APLF 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 82-131

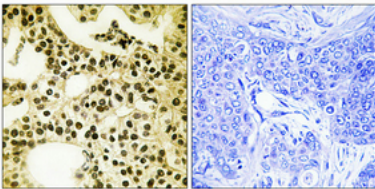
背景

C2ORF13 は、染色体 DNA の一本鎖および二本鎖切断に対する細胞応答の構成要素である (Iles et al., 2007 [PubMed 17353262]) 。 [OMIM 提供、2008 年 3 月],ドメイン: FHA 類似ドメインは、XRCC1 および XRCC4 との相互作用を媒介する。、機能: 一本鎖および二本鎖 DNA 切断の修復に関与する。、PTM: 二本鎖 DNA 切断時に ATM 依存的にリン酸化される。、類似性: 1 つの FHA 類似ドメインを含む。、類似性: 2 つの C2H2 型ジンクフィンガーを含む。、細胞内局在: DNA 損傷部位で XRCC1 と共局在する。、サブユニット: XRCC1 と相互作用する。XRCC4 および XRCC5 とも相互作用する可能性がある。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。